

「どうして唐津？」を再確認したくんち

私は、唐津くんちを見て感動したことをきっかけに移住してきました。議員として迎える初めての唐津くんちは、特別な思い出のある3日間でした。

唐津くんちでは、各家庭が日頃お世話になっている人々を招き、「くんち料理」と呼ばれる手料理を振る舞う、地域ならではの習慣があります。

東京から遊びに来た父もその輪の中に加わり、豪快なおもてなしを実際に体験して、「君がどうして唐津に移住したのか、よく分かったよ」と言ってもらえたことが、何より嬉しかったです。

私自身も、何軒ものご自宅にお邪魔し、本当に豪華なごちそうをいただきながら、唐津に惹かれた最初の感覚がよみがえりました。

その際、「靴がなくなるから気をつけて」と井手議員に脅され、念のため名前を書いた養生テープを靴に貼って、参加することに。

結果は——靴、無事でした（笑）



資格も経験も、自分への投資

私は27歳のときから、毎年必ず一つ資格を取得してきました。せっかく時間をかけて学ぶなら、知識としてだけでなく、「資格」という形でも自分に投資したいと考えているからです。2025年は二つの資格を取得することができました。

一つ目は、日本セラピューティック・ケア協会のセラピスト資格です。手のぬくもりや優しいタッチを通じて、ストレスの緩和や疲労回復、心の安定、身体の不調の改善などを目的としたケアを、医療・福祉現場や被災地など、さまざまな場面でボランティアとして提供できるようになりました。



●夜間講習
@JMA ドローンスクール
(浜玉町東山田)



●唐津珠算学院・福島
克己先生 & my abacus

二つ目は、銀行から借入れまでして取得した二等無人航空機操縦士および目視・昼間限定解除です。ドローンを安全に操縦するための知識と技術を、国が認定する国家資格で、防災や地域課題への活用を見据えています。

そして今年は、新たな挑戦として、そろばんを選びました。唐津市内の小学校を訪問した際、福島先生のそろばん授業を見学し、大きな感動を受けたことがきっかけです。そのまま先生の教室に入会し、議員活動の合間を縫って、小中学生と並んでそろばんをはじいています。

学び続けることは、自分自身を鍛えるだけでなく、現場や人の声を理解する力にもつながると感じています。これからも、年齢や立場にとらわれず、プロから学ぶ姿勢を大切にしていきます。

Team River（唐津市議会議員 古田リバー後援会）

〒847-0855 佐賀県唐津市西浜町 1-15
電話 070-3970-0774（直通）
メール info@team-river.com
https://team-river.com/



ふるたリバー 検索

唐津を選び、学び、関わり続ける

一度きりにしない清掃活動

虹の松原のように多くの人が集まり、にぎやかに行う清掃もあれば、西の浜ビーチクリーンのように、少人数で静かにもくもくとゴミを拾う活動もあります。規模は違って、自然の中で過ごす心地よさや、終えたあとの達成感は共通しています。一方で、清掃活動を一過性のイベントとして終わらせるのではなく、日常の延長として位置づけることで、人は自然と継続的に足を運ぶようになります。

小さな変化に気づき、義務感ではなく、責任感を持って自然と向き合うようになるからです。こうした関わりがあって初めて、環境を守るための政策や制度も意味を持ちます。これからも、無理のない形で松林と海と関わり続ける機会を大切にしていきたいと思います。



●虹の松原清掃
大人も子どもも集まり、力を合わせて



●西の浜ビーチクリーン
顔なじみの地元メンバーで



書・画書心舎

Team River（唐津市議会議員 古田リバー後援会）ニュースレター 発行：2026年2月

だるま通信

高橋是清の
ひ孫から

2026

2

Vol.5



写真左から、井手清和、古田リバー、青木茂、甲斐田晴子、増本増浩

唐津市議会議員・古田リバー

私には、英語で話す“River”と、日本語で話す「リバー」がいます。Riverは、複雑な考えや想いでも瞬時に表現でき、堂々としていて話し上手になる。

一方でリバーは、英語で浮かんた事を日本語に訳してから話すため、常にワテンボ遅れ、ちゃんと伝わっているか不安を抱えている。また、相手の言葉も訳しながら受け止めるので、聞き上手になる。どちらも私。

だけど、言語が人格を分ける。



～ 高橋是清との共通点 ～

私の曾祖父・高橋是清は、豪快な酒飲みで、お酒に強かったと知られています。酒の強さはアセトアルデヒド分解酵素（ALDH2）や体格、肝臓の大きさなど、遺伝の影響が大きいと言われています。



私がかんちの数日間、お酒を飲み続けても思ったより強かったのは、曾祖父ゆずりの体質なのだと思います。でもやっぱり、足元が不安定になるのでほどほどにします・・・とひいおじいちゃんも思ったはず！

私の「地元」になりつつある唐津

2025 年は、「地元」という言葉の意味が私の中で少しずつ変わり、唐津との関係が大きく変わった年となりました。

父の転勤で何度も引っ越しを経験し、留学も重ねてきた私には、「地元」や「故郷」と呼べる場所がありません。唐津に移住して議員になってからも、「唐津の人のために」という、どこか距離のある思いで動いていたように思います。

しかし昨年、各地区のお祭りや勉強会、会食を重ねる中で、その距離感が少しずつ縮まってきました。自分は唐津の一員であり、このまちの出来事を「私ごと」として考えるようになってきたのです。この変化は、私にとって大きな意味を持っています。

そして議会では、「皆さんの暮らし」ではなく「私たちの暮らし」を起点に、必要な問いと提案をし続けます。

2026 年が、私たちの暮らしに確かな前進とゆとりをもたらす一年となるよう、力を尽くしてまいります。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。



①市役所職員用の休憩室試行の始まり

3 月・6 月・9 月の一般質問で問い続けた結果、職員アンケートでは 935 件の回答のうち 55.7% が「昼休憩の専用スペースが必要」と回答し、ニーズが明確になりました。これを受け、今年 1 月から庁内 5 階の会議室を活用した職員用休憩室の試行が始まっています。今後は利用状況を踏まえ、調査と分析を重ねながら、必要な取り組みを検討していく方針です。



市職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの充実が、結果として市民サービスの質の向上につながると思っています。

●唐津市役所新庁舎

②元県港湾課長が副市長に！港湾計画改訂への姿勢

唐津港は、人流を担う東港と、物流・水産機能を集約する西港からなる多機能港湾です。しかし、現行の港湾計画は平成 17 年の改訂から約 20 年が経過し、貨物の変化や船舶の大型化など、現状との乖離が課題となってきました。市として見直しを求めてきましたが、港湾の管理者である佐賀県の判断もあり、十分に進んでいませんでした。

そうした中、県港湾課長を務めた中西昭成氏が 7 月に副市長に就任されました。議場で副市長本人に答弁を求めることはまれですが、港湾計画改訂の必要性和県へのアプローチについて 2 度質問しました。

その結果、市長の意向と合わせ、副市長が県や関係者とともに議論を進め、計画改訂に向けた要望に尽力していく考えが示されました。

港はすぐに変わるものではありませんが、将来を見据えた議論が動き出し、前向きな変化が生まれたと感じています。

●唐津港は、私の自宅から徒歩圏内です



新風唐津、公式ウェブサイト公開！

唐津市議会において、会派として公式ウェブサイトを持ち、活動や考え方、政策の方向性を「チーム」として発信するのは、初めての取り組みです。その連帯性を、私自身の視点から、経験を通してお伝えします。

おおむね 40 日間にわたって開催された 9 月議会終了後、私は手術を受け、十分に回復しないまま唐津くんち、そして 12 月議会を迎えました。

一般質問の準備を万全に行えない状況でしたが、「チーム」で向き合う新風唐津の姿勢のもと、松本議員に思いを託し、会派全体で準備を進めました。

議場では、彼が会派の想いを代表し、唐津が誇る「風景街道」や「虹の松原」を、これからどう守り、どう活かしていくのか。部署や立場を超えた行政体制の必要性を、力強く訴えてくれました。

これからも、一人ひとりの個性やスキル、そして体調にも目を向けながら、「協働」を基盤とした政治を進めていきます。このサイトでは、その想いとストーリーを発信しています。

ぜひ一度、ご覧ください。

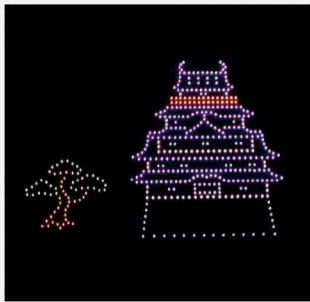


新風唐津公式ホームページ
<https://shinpu-karatsu.jp/>



③ドローン実証の受け皿としての唐津

昨年 6 月、東京で産業用ドローンの社会実装をテーマとした研究会が開かれ、全国から行政・民間・研究機関の関係者が集まりました。JUAV 会長は、「ドローン生産の拡大には社会実装が重要である」と、研究会の意義を述べました。唐津には、山・棚田・森・川・海・離島といった、ドローンの実証試験に適した条件がそろっており、防災、農業、環境、観光など、複数分野におけるドローン活用を同時に検証できる強みを持っています。



●ドローンショーの実景、一つひとつの点がドローン

こうした背景から、唐津がドローン実証の受け皿となる可能性について問いかけました。また、ドローンに関心を持った唐津市民が市のホームページで検索すると、国土交通省に問い合わせる案内しかない現状を踏まえ、地元で相談や情報収集がしやすい体制づくりの必要性を訴えました。

実現までには時間がかかりそうですが、合併 20 周年記念事業として行われた 500 機によるドローンショーは、市民がドローンの可能性に目を向けるきっかけになったと感じています。

神様に護られている町 人口減少時代に考える唐津の祭り

Saikoji.com によると、唐津市には 204 社があり、佐賀県内の神社 1,095 社のうち約 18.6% にあたります。また、全国の約 1,741 市区町村別の神社数で見ても第 42 位と、とても高い順位です。このことから唐津が信仰とともに歩んできた町であることが分かります。

私は、唐津が比較的大規模災害が少なく、気候にも恵まれてきた背景には、こうした神社やお寺、それらを深く信仰する人々が長い年月をかけて築いてきた「見えない守護」、いわば結界のような存在のお陰ではないかと感じています。私自身、市内の神社やお寺に日常的に足を運び、祈りの時間を大切にしています。唐津の神様仏様は、私にとって欠かせない支えです。

唐津では、各地での「祈りと感謝」が「祭り」という形で表れます。祭りは、人と人をつなぎ、地域の歴史や歩みを受け継いできた大切な営みです。一方で、人口減少と高齢化が進む中、かつてのような活気が薄れている地域もあります。それでも、何世紀にもわたって地元の神様が町や土地を護り、人々の暮らしを支えてきたことに変わりはありません。変化の時代だからこそ、催し物に参加し、対話を重ねながら、何を残し、どう支えていくのかを、政策の視点からも考えていきます。



●浜崎祇園（7/26-27）
高さ 15m の山笠が 3 台、独特のお囃子のもと巡行。夜はライトアップされ、高スピードの山笠回しが見どころ。



●相知くんち（10/17-19）
高さ 10m の大山笠や稚児行列、中山浮立などが相知宿通りを練り歩く。夜はライトアップされ、最終日には花火もあがった。



●鏡くんち（10/12-13）
初日は高さ約 6 メートルの山笠がライトアップされて巡行。2 日目は昼の山笠巡行。電線を手で持ち上げながら 2 台の山笠が住宅街を進む。



●唐津くんち（11/2-4）
約 400 年の歴史を持つ伝統的なお祭り。14 台の曳山が「エンヤ、エンヤ」「ヨイサ、ヨイサ」という掛け声とともに、笛・太鼓・鉦の囃子（はやし）に合わせて城下町を練り歩く。

大切なものを守るという 選択と行動

掃海艇「平島」と護衛艦「不知火」が唐津に来航し、艦内で目にした設備や構造は、「命を守る」ために無駄なく考え抜かれたものでした。

けれど、最も心に残ったのは、その後の食事の席で交わした会話です。厳しい訓練、長い航海、家族と会えない時間。それでも迷いなく「日本を守る」という選択をする背景には、「大切なものを守りたい」という率直な想いがありました。

人は、愛着を持つものに対してこそ最善を尽くします。無関心なものを、命を懸けて守ることはできません。守るという行為の根底には、愛情があります。

佐賀に配備されているオスプレイも、災害時や有事において人や物資を迅速に運ぶための「使わないことが一番良いが、必要なときに使える備え」として存在しています。私たちを守る人がいることは、決して当たり前ではありません。

制服を着て国と人を守る仕事に就く人々に、立場を超えて敬意を払うことは、社会としての成熟であり、日本人としての誇りだと思っています。



●護衛艦「不知火」艦上にて集合写真



●陸上自衛隊 佐賀駐屯地での輸送機オスプレイ視察

ふるたリバー後援会よりお知らせ

チームリバーの仲間を随時募集中！

唐津市政の発展と住民福祉の向上と一緒に目指す方々とながかりませんか？



オンライン
申し込み先



ホームページ



ブログ